





動物園饲养日記 —〈165〉— 亀井一成



## 「ぞうさんの遺言」(朝日放送)への涙



私は泣いた。私は泣きながら、いい知れぬ悔恨と自責にかられていた。

横たわった摩耶子はもう帰らない。

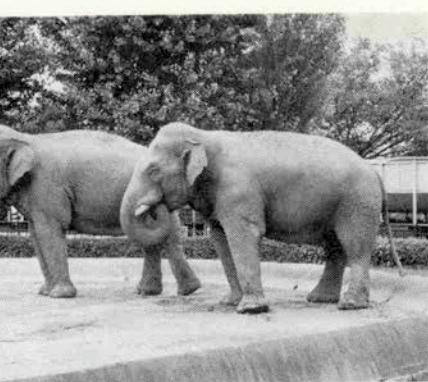
昭和二十五年三月、敗戦の子供たちに多くの夢を運びたこの巨象に、私は手カギを打ちおろし、芸事を教えた。そして命がけで生きた摩耶子は僅か六年、その生涯はあまりにも短かかった。いや、ひとときの安らぎさえもなかつた重たい足首のクサリは、長い悲痛な日々の連続だったろう。

昭和三十一年八月二十三日、私は人間としてこれほどの悲しみを味わつたのははじめてだった。線香を手向け通夜というより泣きあかした。

今まで自分がやつてきたことは何だろう。もし、摩

耶子に芸を仕込みさえしなければまだ生き、天寿を全うしたであろう。現に臆病で芸事がどうしてもできなかつた諏訪子は元気に生きているではないか。

巡業に出ることもなく、結核菌に感染することもなかつた。それにひきかえ、気丈夫な摩耶子は、手カギをふるう私にあまりにも忠実であつた。体力を消耗しつくしてもその芸を守ろうとした。その報酬がこれだけのものであった。なんとしたことであろう。



のんびりと暮す、スワ子<左>と太郎<右>

—摩耶、  
かんにんし

ておくれ、おまえは動物園に来て何のために演芸なんか、せなあかんのや。どの動物も、みなつれあいを貰い、赤ちやんを生ませ、その家族生活をどうしてさせてくれなかつたんや！」おまえは、そういうたんや！」

もういくら、大声で、いくら大きなほっぺたをぶつてやつても、もう摩耶は冷たいまま、何も言つてくれなかつた。摩耶、もういつべんでええから、眼を開けておくれ……。

#### 【マヤ子の発病。飼育日記から】

昭和二十八年九月  
三年め（昭和二十八年）の五月頃、尻の辺りに「できもの」大きく腫れ、治療したが全治に三週間かかった。この間、出張中止。



マヤ子の足はいつもこの鎖に……

昭和二十九年三月、再発、微熱続き、右前足首、関接

炎跛行、全治に十カ月を要した。

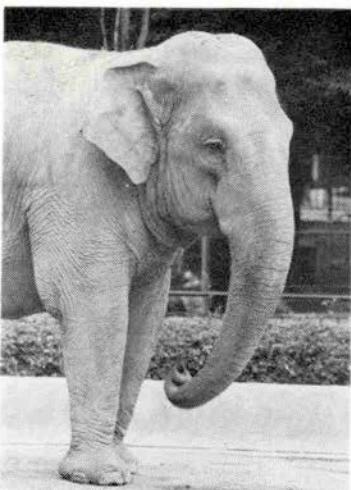
昭和三十年五月、また再発、両前足関接炎、と、下腹部に腫れを感じさせる。不活発、やせはじめる。微熱続

く、色々投薬の結果下腹部の腫れ消失、しんどそうだが食欲はかなりある。

昭和三十年八月、出張を終え帰つたばかりのマヤ、相変わらずブールに入ったきり（微熱のためだった）、その

折、突然の豪雨とカミナリにスワ子は部屋に逃げこんだ、

ところが、プールのマヤが、あがつてこない。またも前足を痛めていたマヤ、プールによろけたままだつた。すると部屋から再び走り出てきたスワ子が、プールのマヤ子に近づいたと思うと、力まかせに鼻づらでマヤのからだを押し上げ立ちあがらせ、次には後ろ向き尻で押しながらあれよあれよと思うままに部屋へ押しこんでやつたではありませんか、そのうるわしい二頭のゾウさんの姿を終止見ていた、食堂のおばさんも私も、知らぬまに涙をこぼしていました。



スワ子、38才。今も元気です。

### 【マヤ子送別の言葉】

ストレプトマイシン50人分を毎日お尻に打ち続けた私は全くよくがまんしてくれたマヤ。最後の砂糖キビ三本を食べ終え、逝ったマヤに異常な態度を示すスワ子、何度も何度も大声をあげオリの中を走り回っていた。

### 象マヤ子儀

かねて病氣中のところ、昨夜十一時十分、遂に死去しました。生前、かわいがつていただいた皆様に心よりお礼申し上げます。



マヤのお墓。安らかに眠っていることでしょう。

### △王子動物園学芸員／写真も△

るいは四国へ、お前は到るところで子どもたちの歓迎を受けた。きっとお前はあの世でも大勢の子どもたちのいいお友達になることだろう。

苦しかつたろう、痛かつたろう、お前はいつまでもこの動物園の一隅で私達を見守つてくれることだろう。

山本鎮郎園長（二代目）

急を知りかけつけて下さった石原助役、宮崎助役、それに山本吉之助初代園長の眼にも涙が光っていました。私はこうした動物園の彼等が哀れな終身刑の身であること、もし、人間であれば親や兄弟一同が会したでありますよう。象であつた故でありましょうが、マヤ子の死に母さんも父さんもがやつてこなかつた。あたりまえのことでありましょうが二十七才の私の心には重たく残つたのです。（当時の日記より）

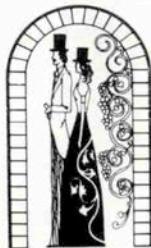
放映一時間三〇分のテレビドキュメント「ゾウさんの遺言」放送の翌日、感激のお礼が殺到しました。皆様心よりお礼申し上げます、きっとマヤ子も私の左横での前足を折りひざまづいた姿で喜んでいてくれたにちがいありません。かわい児童二人がマヤ子のお墓にそつとバナナ二本を埋める姿、私は感涙を新たに目撃したのはその翌日のことであった。

ゴージャスなムードと本物の味…  
三宮センター街の憩いのオアシス



喫茶館  
**葡萄屋**

三宮センター街3丁目(旧柳筋)  
電 (078) 391-9006  
8:00AM-10:30PM



9月中旬姉妹店仏蘭西屋が市役所前にオープン

**Hat dog**



なんすい  
**軟水のCoffee  
味、また格別。**

営業時間 午前10時～翌午前2時



コーヒーハウス  
**ハットドッグ**  
バス停「中山手1丁目」南側角  
電 (078) 321-1689

宝塚—船坂谷—鳥居茶屋—一軒茶屋—阪急六甲

・六甲山100コース

# 水澄む船坂谷

島 京子 △作家△



石宝殿あたりにて筆者と息子さん

気配につつまれていて清々しい。

ことしに入つて一番気温が上つた日であつたせいか、まばゆい陽さしを受けて渓谷をたどるうち、少し汗ばんでくる。

山登りは、谷の潮行が一番、ということをよく聞く。

変化に富み、バランスの訓練になる、というのだが、川底の石を踏み、とびこえするうち、ふつと油断をすると、足をすべらせたりする。判断のあまさ、すさんな態度など許されない。

出発点から、あとになり先になりして登つていて三人の若もの姿が、ふと見えなくなる。

新しい堰堤が目の前に現われ、水が放流されていた。急坂のまき道を登り、ダムの上の河原に出たところで、テントが五つばかり設営され、子供たちがたのしそうに出入りしているのを見る。

新旧とりまぜて、五つの堰堤をこえ、川上の滝にたどりつく。すると、先刻の三人の若ものがはや到着していく。滝近くの砂地にリュックをおき、人じん、大根、米、つけものなどを並べて、飯盒炊さんの支度をはじめていた。

滝の左手の急坂を下つてくる人がいる。少し石にもたれて休み、下りの人たちがおりてしまつてから、われわれも水を渡つて、登りはじめる。

滝の上の水流に、桜の花びらが浮び、落花はじめた。桜の木をみつける。思いがけぬ花見をよろこぶ。

六甲山の表登山コースは、あれこれと登つた経験があるが、裏から登るのは、はじめてのことと、この船坂谷溯行（そこう）がたのしみであった。阪急宝塚駅の前から、バスで船坂橋までゆき、流れにそつて登りはじめたのが九時四十五分。同行者は案内人の息子と、カメラ係の編集部のM嬢である。

地図で見ると、この船坂川は、北へ下つて鎌倉峠となり、なお流れで福知山線の道場駅の近くで武庫川と合流している。表六甲を流れ下る川とちがい、裏を流れるこの川の水は澄みきつて、近ごろではめつたに見られぬ美しさであり、鎌倉峠という渓谷美を下流で形成しているのもむりはないと思われた。

折から新緑の季節で、期待していたとおり、やわらかな緑が、明るい渓流の両側を埋め、うすくれない色のつじがみどりの間に見えかくれする。何もかもが澄んだ

やがて渓流の底が、巨大な御影石になつてくる。その大きさ、風趣に目をみはる思いである。

サワガニを見つめた。

M 娘が早速カメラに納める。

足もとに、どれほど小さなすみれを見たことだろう。

高山植物のショウジョウバカマも生きていた。

ときおり、オリエンテーリングに参加しているらしい若ものたちが、谷を下つてくるのに出会うのみで、登山者の姿はほとんどない。

「鳥居茶屋まで、あと五〇〇メートル」

の標示を松の木の幹に見つけたときは、ほつとする。

この谷ではじめての目じるしであった。

涼しい木かげでの小休止を四度ほどくり返して、いよいよ山頂が近づいた気配を実感する。落葉の小道が折れ曲つてづき、車の走る音を耳にする。

鳥居茶屋の横に出て、M 娘は証拠写真をとりまくる。

出発からちょうど二時間であった。

「ハイキングコースというより、登山コースでしたね」

M 娘の感想である。キロ数にすると、四、五キロメートルほどで、大したことはないが、充実した確かな時間をすごしたという感じが深い。

鳥居茶屋前の自動車道の向うに、石宝殿の鳥居が見える。石宝殿は六甲山の神様として知られている。

そこから西へ、一軒茶屋まではすぐだった。再建された一軒茶屋へは、はじめてのこと。大きな窓ガラスが見

ちがえるように屋内を明るくしている。それぞれのコースをたどつて六

甲にやつてきた家族づれやグループ

学生たちが、たのしげに食事をしている。それらの人たちの姿を見ることも、たのしいのである。

キャンツリーハウ

ス駅からロープウ

エイで表六甲駅までゆき、この日の山歩きは終る。

サワガニも棲むほど水の澄んでいる船坂谷



# 私も滑つた夏スキー

犬童 徹 △洋画家▽



犬童さん父子と長谷川園長（左）

山に囲まれた熊本の片田舎・湯前に育った私は、子供の頃、年に一度10㌢位も雪が降ると、うれしくなつて、自分の背丈の竹を火に炙つて先を曲げ、即席のスキーを作つて友達とスキーの真似ごとをして楽しんだものです。

それが三十才も過ぎてから、学生と一緒に雪景を描きに信州の野沢スキー場へ行き、そこで一度にスキーの面白さに魅せられ、スキーの虜になつてしましました。計四回も野沢に行きましたが、私のスキーは技術の向上より、むしろ、滑つて楽しめば良い方の部類ですからスキーの程度もお分りでしよう。展覧会も終つた休日に、晴天に恵まれ私の長男と編集の方に御同行願い、『六甲夏スキー』行きとなりました。車で国道二号線から石屋川を上り、鶴甲團地を通つて有料道路入口へ。そこで、表六甲ドライブウェイを行くつもりが、周辺の新緑、山の美しさに魅せられているうち、道を間違え六甲トンネルへ。

出たところから裏六甲ドライブウェイへぬけ、目ざすスキー場へやつと到着。スキーの前に園長の長谷川さんにお話を伺いました。この人工スキー場は、昭和三十八年に出来て、四十八年からはプラスノースキーを試験的に試み、五十二年から本格的に営業されているとか。このプラスノースキーというのは、プラスチックとポリエチレンで作った八の字型のユニットを敷きつめたもので、夏でもこの“雪”の上で滑れるというわけです。冬はこの上に氷を粉にして、スノーガンで巻散らして“雪”を作つて有難いですね。ゲレンデは幅二十㍍、長さ二百㍍、斜度十度の初心者用と、幅十㍍、長さ二百㍍、斜度二十度の中・上級者用の二面があり、夏スキーは四月一日～十一月いっぱいまで、冬スキーは十二月中旬～三月中旬まで。入場料は二百五十円、滑走料千百五十円、貸スキーはセットで千五百円。初心者は携帯品として、長袖シャツ、長ズボン、手袋はつき指する事もあり絶対持参してほしいとの事です。雪を求めて日本アルプスに出かける事を思えば、安上りで健康的なレジャーともいえ、爱好者もいとの事です。雪を求めて日本アルプスに出かける事の最高だったそうです。お話を伺つた後、待ちに待つたスキー。スキー道具一式をお借りしましたが、年々道具も使いやすくなっていますね。編集の人はスキーはベテラン、私の長男は初めてなので、まず、八の字型のボ



初めはグニャリと地面に倒れても子供はすぐに上達するのです

一ゲンを教えましたところ、思うようにならぬスキニーに、子供もわかれかな、両手、両足がゴム人形を好き勝手に曲げたように、ゲニヤリと地面に倒れてしまいました。それでも、子馬が初めて立つ時の動作を、何回も練返すうち、なんとか滑ることより立つ事に慣れてきました。あとは後から抱くようにして一緒に滑りましたところ、コツが分つたのか、自分で一人で斜面を一直線に滑っていました。

きました。大人より子供の方が上達が早いですね。私は、滑る前、システム・ターン、バラルターン、ステップターンと、教科書通り格好良く滑る事を頭に描いていましたが、滑つてみると、体がいう事を聞かず、両足を揃えて行うバラルターンがうまく出来ず、なんとも様にならない格好。その側を同行の方が水澄ましの様に、スライスイと滑られるのは、私、梯子段、彼女一級の差が歴然としていました。何回か滑つた後、適当に腹も減り、編集者の手弁当を御馳走になりましたが、雲一つない青空の下で、未来のスキーチャンピオンのスキーヤー達を眺めながら食べるサンドイッチとミルクティーの味は、又、格別でした。午後はスキーヤーも増え、混んできましたが、人がぶつかる様子もないところは、皆さんある程度、日頃、楽しんでおられる連中とお見受けしました。中にはグループでみえて、先生らしき人が先に滑り、後に続く人達が、次々と体ごと芸術の様に、地面に転がっていく様子は、見ていてほほえましい感じでした。プラスノースキー云々は、本格的にやる人の感想で、私が滑った夏スキーは、きわめて良好で、基本的な練習、上級者達の技術の練磨にも最適だと思いました。高い所から斜面を滑るスリルは、何度試みても良いものですが、もっと基本的な技術をマスターして、テレビで見るよう格好良く滑りたいものだと、夢は果てしなく続くようです。本当に楽しい一日でした。



KINGS ALLEY



フラワー・ブティック YOSHIDA

1F ☎ (843) 0109 岡本店 ☎ (453) 1640  
パーティにプレゼントに花のメッセージを。花を扱うセンスには自信があります。



Coffe e musica 六甲香

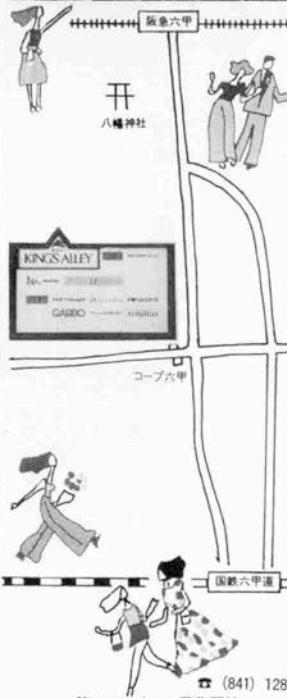
1F ☎ (822) 1875  
ロココと読みます。ロココ調のインテリアに白いピアノが。そして自慢のケーキと自家焙煎珈琲をお楽しみください。9AM~10PM



ビストロ シエ・ふじもと

2F ☎ (843) 1155 木曜休  
藤本二三代の店。パリの小粋なビストロの雰囲気が伝わります。平日5PM~1AM、土日祝11AM~11PM。

六甲キングスアレイ  
神戸市灘区日尾町3-1-3



ブティック G A R B O

1F ☎ (822) 0484  
子供服、Tシャツ、お人形、くつ、バッグ…勢いいっぱいの手作りのものばかり。お店の奥でいしき君がミシンをふんでいます。



ブティック フェニックスさとみ

1F ☎ (843) 0119  
さとみのドレスは、風になびくのです。女っぽく優しく軽やかに。六甲の風を感じさせてのです。



健康食品 六甲ヘルスフーズ

1F ☎ (821) 5591  
美しさは健康から。美容と健康に奉仕する六甲ヘルスフーズ。お気軽にご相談ください。

● 小山乃里子の

ノコ  
ち  
や  
ん

# 華麗なる食べある記

△糸 平

△15△ う な ぎ 糸 平

△16△ レストラン シーサイドクラブ パレス塩屋

るというわけにはいかない。

「糸平のうなぎ食べたら、他のうなぎなんて食べられへんよ」と、友達のミヨコサン。

「そうだなあ、一月に二回か三回行くかなあ。得意先を連れてつてもみんな、うまい、また行こか、いうしな」銀行マンの三郎サン。

糸平ファンは、かなり熱狂的である。

ただし、と、これまた誰もがいう。

「お腹ペコペコの時行つたら、つらいよ、あの匂いかぎながら待つてるとほんまにつらい……」

私もそのつらい思いをたっぷりと味わつた。朝の番組終つてかけつけて、もちろん朝御飯はいつも食べないから、おなかと背中がひつつきそう。だけど、糸平サンはお客様をみてからやおらうなぎを焼き出すから、牛丼のなんとか屋みたいに注文と同時に丼が目の前に出でく

る。

紀州の備長炭を使い、この火足が短く火力の強い炭の特長をうまく生かし、こんがりと焼けたようで焼けないようで、という焼き具合のむずかしさ。白やき百べんという言葉があるよう、百べん位も引っくり返して、じわじわと焼くのだそうだ。「まむし」というのは、あの蝮からきたのかと思つたら、まま(御飯)でもすからまむしというのだそうで、やつとありついたうな丼、たきたての御飯の上にぼつりといふか、肉付きの良いというか、そちらのうな丼の三倍もありそれが二切れのつかり、その上にまた御飯がちよこつとのつてゐる。舌にとろけそうな柔らかさ。それでいて舌にまとわりつくようなうなぎ特有のねばっこさもあり、おいしいなんて言葉じや言ひ表わせない程の味である。うまきはこれまたうまき(なんのこつちや)。八幡巻き、口に放りこんだとんとけた(ちょっとオーバーかな)。うざく(酔のもの)も、こんなに身のたっぷりついたの知らな

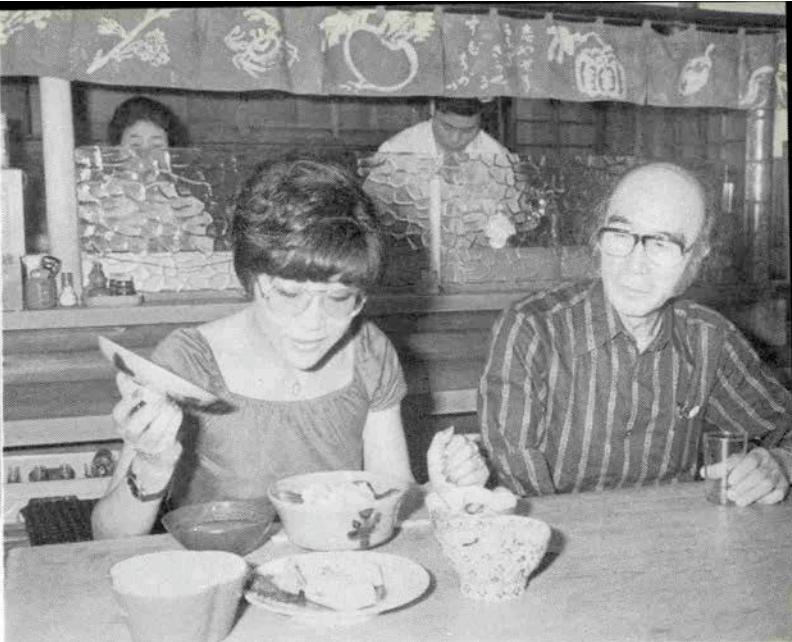


# 糸平



ヴォリュームたっぷりのうなぎ丼。うまい、うさく、八幡巻などの付出しでちょっと一杯ノもいい。

アツアツのご飯にデッカイうなぎ。この丼だけで満腹になってしまいます。ご主人の鎌田糸平さんはなかなかの隼人で、この日もまっさらファッショの話。



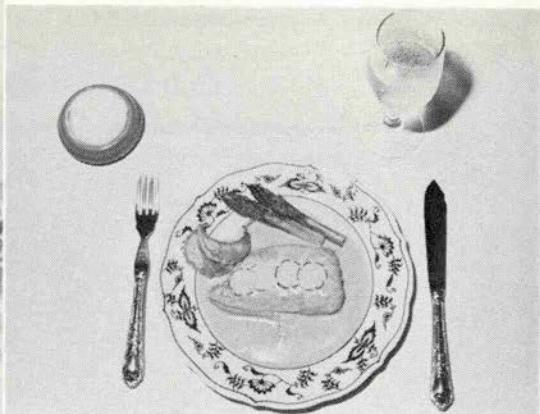
三宮神社東通り、知ってる人しか入って来ない細い通り。昔は神社の中に六十軒程の店があり、コーキー屋、映画館、小間物屋、エトセトラ。朝から夜通しにぎわったものが、戦争で焼け、それでものあたりが好きだと、うなぎ一筋もう二十五年である。全部で二十人も入れば満パイの小さな店ながら、つとにこの店が名高いのは、うなぎともう一つ、ご主人糸平さんの南画、水墨画の腕前であろう。海外での個展も数多く、先日もヨーロッパを四十日もまわってこられたとかで、うなぎの話よりも、イタリアのファンションの話なんかに花が咲いたりして、本当に楽しいおじ様である。ただし、お店には糸平さんの絵は一枚もかかっていない。その代り、こんな江戸時代の川柳が……「恋やせにうなぎさかせるすじがい」

生田区三宮町2  
営業時間  
11時30分～8時

## □シーサイドクラブ パレス塩屋

### ★南仏を思わせる海べりのレストラン

私の愛読書の一冊に「海からの贈物」という本がある。著者は大西洋横断飛行に最初に成功したリンドバーグ大佐の夫人で、彼女が海辺を歩いて目にした風景や、拾った貝がらなどから、女のこと男のこと、結婚とは何か、知性とは何かを書きしたるものである。その出だしの一筋「浜辺は、本を読んだり、ものを書いたり、考えたりするのにいい場所ではない。温かすぎるし、湿気があまりすぎて、本当に頭を働かせたり、精神の飛躍を試みたりするのには、居心地が良すぎる。しかし何度も繰り返しても同じことで、やはり浜辺へは、禿げちょろの籠の中に、しなければならないことの表や、本や紙や、もうずっと前に返事を書くはずだった手紙などを一杯詰めて、張り切つて出かけていく。そしていつも、読みもしなければ書きもせず、ものを考えさえもしない……」



あっさりした味の“ひらめのエビソース”

海のすぐそばで食事が出来るのも神戸ならではのもの。陽差しの強い日でもよし、どんより曇った雨模様日のでもよし、南風でとっでもロマンチックです。南専務と。

シーサイドクラブの椅子にのんびり坐っていたら、この本を思い出した。実に素敵な雰囲気のレストランであり、そして実に素晴らしい景色である。名前は良く知っていたのに週に一度は須磨まで出かけているのに塩屋まで足をのばす、ということがなぜかおっこうで、今回取材はじめて行った。だから感激も大きかったのか。海に向って開かれたテラスから、下をのぞけば、そこだけが細かい砂浜で、海でも、このあたりだけ色を変えているような、そんな錯覚におちいってしまう。地中海に面した、ニース・カンヌをおもわせるたたずまい、といううたい文句が、そのどちらにも行ったことのない私の頭の中にも、すんなり入ってくる。あいにくの雨であつた。冬の海、雨の日、そして荒れた日には、ノルマンデーのようです、とかたわらで誰かがつぶやく。ワインを口に運びながら、一瞬ここはどこだろう、とふと思ふ。

フランスを中心とした9年のヨーロッパ料理修業を終えて、ここで腕をふるう、シェフの山口さんが、今日のメニューを教えてくれる。あっさりした中にもこくのあるステップ、今そこでとつて来たような舌びらめのエビソース。週に一度は海の幸をふんだんに盛り込んだメニューも出る。ディナーは、その名もカンヌコースとニースコース。この雰囲気にすっぽり身を包み、なんと9時間も坐っていた人がいたそうな。

食後のコーヒーを飲むなら、ここからほんの数十メートルの旧エビラ邸の塩屋異人館俱楽部へ。大きな籐椅子に坐るもよし、海をみながらサンルームにへたり込むもよし、そしてエグロコーヒーを飲みながら、想いにひたるもよし。

私は「海からの贈り物」のように、なあんにも考えることをせず、ただぼんやりしていただけだつたけど。

垂水区塩屋町字高尾 電753-1373

営業時間 11時～10時

垂水区塩屋町小谷267 電751-2386

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ  
<神戸のファッション都市化をめざす>

# K. F. S. news 42

事務局／神戸市生田区東町113-1  
月刊神戸っ子内 TEL (078) 331-2246

## ★6月例会

# から騒ぎ

作・シェークスピア  
「劇団 神戸」

劇団神戸が嵐月堂ホールで定期的に催す「コメディー・ド・フウゲツ」第一回の「から騒ぎ」を見ようというのが六月の例会。観劇というのはK.F.S.の例会では初めてのこと（お芝居見たの初めてと仰っしゃった方もありました！）。出席率は良ありました。

さてお芝居のあと、演出・主演の夏目俊二さんをお招きしてお喋り、という趣向でした。毎度のことながら嵐月堂のご好意で遅がけのお夜食をして、夏目さんとお話。

劇見るの初めてという某氏もいれば、実は道化座にいらした時に……（市野木さん）とか、学校の後輩で



## 夏には喜劇が よいものです

夏目俊二さんを迎えて

……（渡辺さんとか 兼古さんとか）と内輪バナシが開花。

嵐月堂ホールで三方を観客に囲まれての芝居というのは劇団神戸も初めてだったそうです。舞台のない新しい形の劇でした。そのあたりの苦心、衣裳のこと、連日立ち見が出る程人気だという程今皆芝居を見たがってるということ、そして、水割片手に～、という芝居の見方など、話ははずみました。

公演後でお疲れだったろう夏目さんには、ここで改めてお礼申し上げます。



マンスリーサロン恒例の記念撮影・中央が夏目俊二さん

コメディー・ド・  
フウゲツ 8月公演  
8月23日(木)～  
26日(日)  
井上ひさし作  
「四谷諧談」  
6:30 P.M.より  
チケット1,800円  
当日2,000円

## 第6回夏の総会

### ●新しい理事が決まりました

7月13日(金) 農業会館のブーンで開かれた総会で、55年度の新理事新役員が決まりました。会長は6期目中原武志さん。「中原さんはやはりK.F.S.の“顔”だから！」という会員たちの推挙の弁、皆さん今年度もよろしくお願ひいたします。

会長 中原武志

副会長 柿本雅司、大内信行、田中謙司

会計 米田博司、張恵美

理事 荒木雅美、市野木江充子、小笠原明(新)

兼古啓嗣、川瀬弘子、清谷泰夫、小泉美喜子

植雅琴、西条幹男、佐藤良子、中島正義、藤本ハルミ、渡辺三船、若林雄三(新)



### ●前年度会計報告と今年の予定

クリスマスパーティ、秋の角川春樹、春の立兎長三の二回の公開講座、毎月のマンスリーサロンと去年も活発な活動でした。今年一番の課題は会員名簿の整理です。住所変更などすみやかにお知らせ下さい。

## 8月マンスリーサロン

8月6日(月) 6時半より

六甲オリエンタルホテル

会費／5,000円(会員以外は6,000円)

講師／細川菴さん(哲学者)

テーマ／H大学哲学夜話

# ★神戸の集いから

★望月美佐・中国の華宴

何しろ日本人で初めて中

国の大書してまたまた名

壁面に大書してまたまた名

を馳せた女流書家の望月美

佐女史が、神戸からの文化

交流団と共に四月末から半

月中国の旅に出て、その帰

朝報告会が、六月十五日神

戸飯店で約一五〇名が集つ

て開かれた。



チャイナ服姿の望月さんと新井満さん

中国の旅八ミリフィルム  
上映で美佐女史達の中国文  
化交流ぶりが紹介され、会  
場には中国の書家達との交  
流書展もあり、お食事は北  
京宮廷料理と中国ムードい  
っぱいだ。日本ではこのチ  
ームでしか京劇上演はムリ  
という華僑の人達による歌  
劇。父上、林福貴さんのこれ  
が最後という青竜刀の剣舞  
を子息の林攸樹さんが涙で  
紹介し、鮮やかに披露した。



武田芳一さんを囲んで

の上映から武田芳一さんの  
「熱い港」出版記念会は始  
まった。この映画には驚い  
た。昭和33年に、大正10年  
の労働争議時の実写フィル  
ムを復元する形で作られた  
貴重なもので、当時の4万  
人のデモ（大示威行進）が  
神戸の街を大迫力で進行す  
る辺りは圧巻。他にもこの  
ノンフィクションを作る上  
に、唯一の生証人として取  
材した青桓善郎夫人（92才）  
も元気に対応。争議から58  
年を経た歴史の重みが感じ  
られた。

中国の旅八ミリフィルム  
上映で美佐女史達の中国文  
化交流ぶりが紹介され、会

場には中国の書家達との交  
流書展もあり、お食事は北  
京宮廷料理と中国ムードい  
っぱいだ。日本ではこのチ  
ームでしか京劇上演はムリ  
という華僑の人達による歌  
劇。父上、林福貴さんのこれ  
が最後という青竜刀の剣舞  
を子息の林攸樹さんが涙で  
紹介し、鮮やかに披露した。

## ♥小泉パーティご案内

### 小泉パーティは

結婚を希望する男女にお見合や爱好会  
によって健全なご交際のお手伝いをい  
たします。身元の確かなことは良縁の  
第一条件です。身元の確かな方々の会  
員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円  
<小泉パーティ夏のハイキング>

日時／8月26日（日）午前8時 山陽電鉄須磨浦公  
園駅集合

コース／六甲綱走須磨——鶴越コース16.5km  
須磨浦公園——旗振山——高倉台——横尾山——  
須磨アルプス——萩の寺——高取山——鶴越

参加希望者は前日までお申込み下さい

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は

事務局 〒650 生田区北野町3丁目10-2

淡島マンション105号 電078-242-0333 小泉正巳

お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。

★「土佐源氏」に酔い  
灘の酒にはる酔う会  
二本のロウソクが揺れる  
だけの舞台、盲目の老乞食  
が“色ざんげ”を魂の慟哭  
とともに語る。一人芝居「土  
佐源氏」を演ずるは島根県  
出雲市出身の異色俳優、坂  
本長利さん。6月25日夕刻

由来）気分で帰路へ。灘の  
酒を愛しその豊かさを拡げ  
ようと会を始めた会長の太  
田耕一さんは「今後も落語  
会等、楽しい企画を考え  
います」と張りきっている。

（微  
醺の会  
351・6996



坂本長利さん（右）と太田会長（左）出席

農業会館大ホールに於て  
“絶妙の至芸「土佐源氏」  
に感動して原酒沢之鶴にほ  
ろ酔うパーティ”と題した  
微醺（ひくん）の会例会が催  
された。幕が下りた後、坂  
本さんを囲んでみんなで乾  
杯。素晴らしい熱演を観た  
あと灘の酒の一杯は格別  
エネルギーに盛んな拍手が  
よりだと思う」とスピーチ。  
武田芳一さんの「黒い米」  
映画「灯をともした人々」  
の上映から武田芳一さんの  
「熱い港」出版記念会は始  
まった。この映画には驚い  
た。昭和33年に、大正10年  
の労働争議時の実写フィル  
ムを復元する形で作られた  
貴重なもので、当時の4万  
人のデモ（大示威行進）が  
神戸の街を大迫力で進行す  
る辺りは圧巻。他にもこの  
ノンフィクションを作る上  
に、唯一の生証人として取  
材した青桓善郎夫人（92才）  
も元気に対応。争議から58  
年を経た歴史の重みが感じ  
られた。

足立卷一氏は「神戸にい  
る作家としてこの事件に對  
決する作家がいたことは何  
よりも美佐の会のメンバーも  
揃っての中国華宴だった。  
★熱い心の武田芳一  
「熱い港」出版記念会  
映画「灯をともした人々」  
の上映から武田芳一さんの  
「熱い港」出版記念会は始  
まった。この映画には驚い  
た。昭和33年に、大正10年  
の労働争議時の実写フィル  
ムを復元する形で作られた  
貴重なもので、当時の4万  
人のデモ（大示威行進）が  
神戸の街を大迫力で進行す  
る辺りは圧巻。他にもこの  
ノンフィクションを作る上  
に、唯一の生証人として取  
材した青桓善郎夫人（92才）  
も元気に対応。争議から58  
年を経た歴史の重みが感じ  
られた。

足立卷一氏は「神戸にい  
る作家としてこの事件に對  
決する作家がいたことは何  
よりも美佐の会のメンバーも  
揃っての中国華宴だった。  
★熱い心の武田芳一  
「熱い港」出版記念会  
映画「灯をともした人々」  
の上映から武田芳一さんの  
「熱い港」出版記念会は始  
まった。この映画には驚い  
た。昭和33年に、大正10年  
の労働争議時の実写フィル  
ムを復元する形で作られた  
貴重なもので、当時の4万  
人のデモ（大示威行進）が  
神戸の街を大迫力で進行す  
る辺りは圧巻。他にもこの  
ノンフィクションを作る上  
に、唯一の生証人として取  
材した青桓善郎夫人（92才）  
も元気に対応。争議から58  
年を経た歴史の重みが感じ  
られた。

●懐かしのハワイアンサウンド

話題のひろば

<I>

## 青春よみがえる アロハコンサート



上　かわいいなー、と会場から思わずため息。芦屋女子短大レイ・イリマ・ハワイアンズ  
下　この日のためにバンドを編成。安藤義則とホノルル・スーパー・サウンド

上　バッキー白片  
下　エセル中田

かつて神戸商大的学生に、村上一徳という人がいた。彼、イットクさんは、アマチュアのスチールギター奏者であり、ハワイアン音楽のバイオニアであった。そのイットクさんを讃えて——として、ハワイアン音楽の演奏会「アロハコンサート」が去る6月24日、オーリエンタルホテルで開かれた。

▲主催／神戸ハワイアン協会▽  
トップバッターに芦屋女子短大レイ・イリマ・ハワイアンズが登場。当然メンバーはすべて女性。演奏の良さもさることながら、いきなり会場に花が咲いたよう。統一して学生時代にハワイアン音楽を演奏していたという人たちで編成されたボートアイランダースが演奏。トランペットの伊藤隆文さんらが加わったりして、ちょっとデキシーランド・ジャズ調。また、この日のためにバンドを編成した安藤義則とホノルル・スーパー・サウンドは、新しいハワイアンサウンドを披露した。

ゲストには、ハワイアン・ファンにとつてなつかしいバッキー白片とアロハ・ハワイアンズ、そしてエセル中田の歌。彼らの演奏に再び青春が戻ってきたような雰囲気で、会場は最高潮。

最近では珍しいハワイアンのコンサートに約三百人の聴衆は満足の様子で閉幕した。